茂呂 孝志 議員

国保広域化で国保税の引き上げか

末松長寿福祉課長 県からの税率改定の検討を見守る

問 国は、国保運営の広域化を図ろうとしている。広域化すれば町の一般会計からの繰り入れが抑えられ、国保税の大幅な引き上げが予想されるがどうか。

末松長寿福祉課長 現在、一般会計から国保会計に法定外繰り入れしている金額を、保険税で賄えるよう、県が税率の改定について検討していると認識している。

問 町は国保税の引き上げを抑えるため、国保会計に積み立てられている基金を活用したり、一般会計からの繰り入れを継続し、町独自の税負担の軽減措置を考えるべきではないか。

坪根町長 今後、十分検討する。

町独自の介護保険料減免制度の創設は

問 保険制度創設時の介護保険料は月額2908円だったが、現在は月額4872円に引き上げられ、14年間で1.7倍となっている。年金は減り、消費税は引き上げられ、物価は高くなり、そのうえ介護保険料の引き上げでは、負担の限界をはるかに超えている。早急に町は、介護保険料の負担軽減のため、町独自の減免制度を設けるべきではないか。

末松長寿福祉課長 給付費が増えているので、保険料も引き上げられると思うが、広域連合で保険料の減免制度があるので町独自の減免制度は考えていない。

住宅リフォーム助成制度の創設は

問 県下でこの制度を創設している自治体は30におよんでいる。過去の一般質問で町は、「経済波及効果があれば、この制度を創設することはやぶさかではない。町でもこの制度について調べている。町内業者の波及効果を考えると、プレミアム商品券を優先している」と答弁している。この制度を調査した結果は。

福田企画情報課長 全国で628の自治体が実施しており、県内でも少しずつ増えているが、本町では現在実施する計画はない。

問 実施している自治体の経済波及効果は10倍以上ある。この制度は大工、左官などの業者にも経済効果がおよぶ。この制度の波及効果を調査せず、プレミアム商品券だけを優先するのはなぜか。

福田企画情報課長 住宅リフォームに対しても、プレミアム商品券は使えると思っている。

旧ビール館の使用状況は

問 ㈲微創研は誰の許可を得て、旧ビール館を使用しているのか。

福田企画情報課長 平成21年4月1日に、㈲微創研と旧ビール館を所有する会社の2社から、町有地の使用許可願いが提出されている。

問 その2社の間で、建物の賃貸借契約は交わされているのか。

福田企画情報課長 賃貸借契約を交わしているものと認識している。

問 現在、旧ビール館を㈲微創研に使用許可している方は誰か。

福田企画情報課長 平成21年4月1日付で、町有地の使用許可願いを提出された代表取締役と関係のある方である。

問 その方は、旧ビール館を所有する会社でどのような地位にある方なのか。

福田企画情報課長 はっきりとした地位はわからない。

問 町は建物の権限を持った方を呼んで、町の意向も伝えて協議すべきではないか。

坪根町長 町としては、来年度の契約はないと伝えている。

宮崎 昌宗 議員

グッドデザイン賞！受賞？

福田企画情報課長 2つの事業が評価された

問 「住みたい町推進プロジェクト」がグッドデザイン賞※に選ばれたが、何がどう評価されたのか。

福田企画情報課長 グッドデザイン賞は、単にデザインのコンクールではなく、そのデザインが暮らし、社会を豊かにし得るのかという視点で、デザインの効果効用という視点から評価・顕彰するものである。上毛町では平成24年度から厚生労働省の委託事業として、雇用創出の「こうげのシゴト」、定住促進を図る「みらいのシカケ」に取り組んできた。その活動が評価され、審査員の講評では「高齢過疎からの脱却を目指し、美しい里山など地域の潜在的能力を大切にしている。創り出す空間やビジュアルの質も高い」ということで、今回の受賞に至った次第である。

問 この受賞をどう活かしていくのか。

福田企画情報課長 受賞を機に、特産品の開発や担い手づくり、定住促進に係ることなどを通じ、上毛町のブランドイメージの確立に向けて、有機的連携をさらに図っていきたい。

※グッドデザイン賞
1957年、現在の経済産業省がグッドデザイン商品選定制度として創設。現在、公益財団法人日本グッドデザイン振興会が選定。受賞すると、Gマークと呼ばれるロゴが使用できる。

GOOD DESIGN

どうなる「こうげのシゴト」

問 「こうげのシゴト」は、厚生労働省より実践事業の中止が通達され、今年度限りと聞いている。今後、研修事業や上毛町ブランド創造協議会はどうするのか。

福田企画情報課長 この事業は平成26年度で終了する。上毛町ブランド創造協議会については解散という形になる。今後は、企画情報課が窓口となり、3ヵ年で培ったノウハウや人材を有効活用し、ステップアップ研修、フォロー研修の充実に努めていきたい。

問 この事業を通じて、目玉となる商品は見つかったのか。

福田企画情報課長 野草関係のブランド化、商品化について計画をすすめたい。

「みらいのシカケ」の未来は

問 この事業で、本町の季節の良い時期に都会から外部人材を招き、景観の良さを情報発信してもらうことは良い考えだが、景観整備は地域住民や農業者があってのこと。本当の担い手を育てなければ里山も荒れる。グッドデザイン賞受賞の評価をどう維持するのか。

福田企画情報課長 東上の有田に設置した研究サロンで、町の取り組みを全国に情報発信している。来られた方に、「上毛の寺小屋ー弟子入プロジェクト」を活用し、意向調査や受け入れ態勢を調査し、定住を進めていきたい。

町長就任して1年の総括は

問 町長に就任して1年が経過したが、町政運営にあたり、所感を。

坪根町長 4年スパンで考えており、今の時点では自己評価はできないが、行革に最も力を入れた。町民の皆様に喜んでいただくことが私の喜びであり、苦労や努力の先にある真の喜びに挑んでいる。

問 「九州一輝く町」として各課からどのような目標が上がったのか。

川口総務課長 本年度の当初予算の査定時に、「九州一輝く町」となるため各課から次のような提案が上がった。

総務課 行財政改革として町債の繰り上げ償還を行い、健全な財政運営。

企画情報課 住みたい上毛町推進プロジェクト、コモンパークの販売促進などの継続事業の推進による住みたい町づくり。

会計室 全職員の接遇、企画力、交渉力、実行力などの向上。

税務課 税金の収納率増に向けての、職員のスキル向上の取り組み。

住民課 環境の町宣言の理念に基づく、豊かな水と緑の環境共生のまちづくり。

健康福祉課（当時） 町民の健康や福祉の増進に有効な施策を実施し、各世代に通じた総合的な住民満足度の向上。

産業振興課 人づくりを推進しながら、頑張る農業者の育成。

建設課 上毛PAなどの整備活用に伴う町の活性化と環境整備による住みよい町づくり。

教務課 学習環境の充実、子どもに優しい図書読書教育など。

問 2年目以降の町政運営の目標・ビジョンは。

坪根町長 上毛PA、SIC周辺の利活用、この整備が中心になると思っている。行革も含めて、継続しながら各課連携体制のもとで行っていきたい。